

令和7年度第2回緑区支えあいのまち推進協議会

議事要旨

- 1 日 時 令和7年12月20日（土）14時00分～16時00分
- 2 会 場 緑保健福祉センター2階 大会議室
- 3 出席者 委 員 23名（欠席委員数4名 代理出席1名）
事務局 11名

4 議 題

- (1) 次期地域福祉計画について
- (2) 地域の活動事例紹介
- (3) 広報委員の選出について

5 議事経過

- ・開会にあたり、石井区長、岡本委員長より挨拶を行った。
- ・各委員より、自己紹介が行われた。

議題（1）次期地域福祉計画について

地域福祉課より、地域福祉計画の概要や今後の方向性について説明を行い、質疑応答を行った。

【質疑応答】

（岡本委員長）

次期地域福祉計画における地域の取組みの評価というのは、現在の設定された評価項目に対して「◎」「○」「△」「×」の四段階評価を見直すという認識でよろしいか。

（地域福祉課）

ご認識のとおり。毎年、地域福祉専門分科会に評価結果を報告しているが、次期地域福祉計画では地域福祉専門分科会への報告内容を見直し、二重丸等の評価は載せない方向で考えているが、各区の推進協の意見を踏まえて決めていくこととしている。

（岡本委員長）

「地域の取組みの推進体制」について、資料の中では「町内自治会、民生委員、児童委員、青少年育成委員会、老人クラブ、赤十字奉仕団、NPO、ボランティア、学校・PT

A社会福祉事業者等、地域の担い手となる様々な組織や団体と連携・調整を図りながら…」という記載があるが、地域によっては全ての団体が揃っていないところもあると思われる。現在、どのような体制で活動しているか伺いたい。

(角川委員)

大体は揃っている。学校等にも協力いただいて活動している。また、スポーツ振興会も高齢者・障害者のボッチャ等の活動に携わってもらっている。同一の方が複数の団体で活動しているということもあるが、様々な団体で協力しながら活動している印象がある。

(岡本委員長)

椎名地区部会は学校・PTAが参加できない場合がある。様々な団体が揃い、それぞれの視点からの問題について考えていけるとよいと思うため、関係を広げていってもらいたい。

(岡田委員)

極端な話、社会福祉協議会・地区部会の中にこれらの団体は含まれているのではないかと。平山地区は地区部会に民生委員が含まれている。社会福祉協議会・地区部会に重点を置いた方が様々な意見を得られると思う。

(地域福祉課)

社会福祉協議会・地区部会の中で各団体が参画していくことが理想ではあるが、一方で、地区によっては難しいところもあるため、地域ごとの特性に応じた形で連携を図っていただきたい。

(岡本委員長)

取組みの評価について、市民対象の評価というのはどのように考えているのか。

(地域福祉課)

今までは市の施策に対し実施回数に応じて評価をつけていたものを、施策を実施したことによりアンケート結果が良くなった等の観点から評価をしていくよう見直しをしている。

(岡本委員長)

市民の方から意見を集めることは難しいかと思うが、項目を設けて○×で評価してもらう等、回答方法についての方向性は決まっているのか。

(地域福祉課)

現時点では具体的に決まっていないが、例えば市民満足度調査等で「支え合いのまちが実現できている」と感じている方の割合も評価として捉えられるかと思う。

(岡本委員長)

多くの方から回答が得られるような形で実施していただきたい。

(岡本委員長)

市計画と社協の計画を一体化して進めていかなければならないという話だが、どのように結び付けていくか見通しは立っているのか。

(地域福祉課)

計画の策定にあたり、事務局同士で話し合いの場を設けることを考えている。話し合いの中で現在の地域課題等を共有していき、方向性は一致させながら、地域に近い部分を社協の計画、より規模が大きい部分を市の計画といった形で分担していく。

(岡本委員長)

あんしんケアセンターの方から見て、あんしんケアセンターとしての活動と新しい計画について何かご意見があれば伺いたい。

(布施委員)

高齢者の方が抱えている個別の課題に対し支援をしていく中で、地域全体で共通する課題が見えてくる。地域課題の解決に向けて、「地域ケア会議」を開催する等の活動をしており、そういった活動と地域福祉計画で重なるところがあると感じているため、皆様と話し合いをしながら進めていければと思う。

(岡本委員長)

高齢者施設または障害者施設の方からもお話を伺いたい。

(小林委員)

これからの国の取り組みとして、施設利用している方々が地域生活に移行していけるようにしていかなければならないが、地域住民の理解や関心が薄いように感じており、大きな課題として挙げられる。社会福祉法人として、一般の方との交流の機会を増やす等により、その課題の解消に取り組んでいる。交流を通して、「障害を持っている」ということだけに意識を向けずに、部分的に支援が必要なだけの一人の人間であるという理解が

広がっていくとよいと思う。

(廣田委員)

施設で生活していた方が地域で生活するようになる場合、地域住民はその方がどのような方で、どういった支援が必要なのかかわからず、障害に対する心配が先にきて、その方の実態への理解が後になってしまうという課題があると思う。そのため、すでに地域で生活している障害者の方々が積極的に町に出て、実態を見せることによって、地域住民の理解につなげていけるとよいと思う。

(岡本委員長)

椎名地区では福祉バザーを行っており、子供たちが売り手となり、活動を通して福祉について考える機会を設けている。福祉を推進するためには、我々だけでなく子供も含めた福祉を支える全員で「福祉とはなにか」を考えていきたい。そういった計画として進めていけるとよいと思う。

議題(2) 地域の活動事例紹介

・あんしんケアセンター土気生活支援コーディネーターの福邊氏より、カフェたんぼぼの活動事例「認知症当事者・フレイル高齢者のエコバッグ作成による社会参加」についてご紹介いただいた。

・おゆみ野地区町内自治会連絡協議会（代理出席）船田氏より、活動事例「おゆみっこの家」についてご紹介いただいた。

議題(3) 広報委員の選出について

広報誌「みどりのきずな」の原稿作成にあたり、各エリアで広報委員の選任を行った。

<その他の連絡等>

○事務局

次回、第3回推進協議会の開催日については、後日、事務局から連絡することとした。

鈴木緑保健福祉センター所長が閉会挨拶をして終了とした。